

【東京】

福島の子農家グループ 八王子の園児と餅つき交流

2014年1月13日

放射能汚染ゼロを目標に米作りで奮闘する農家がドキュメンタリー映画になった福島県天栄(てんえい)村の農家グループが、八王子市のみどり幼児園(裏高尾町)で餅つきイベントを開き、園児と保護者ら約六十人と交流した。映画は各地で上映され、彼らの活動に少しずつ理解の輪が広がっている。(阿部博行)

農家グループは「天栄米栽培研究会」(会員二十一)。同村産業振興課長で事務局長担当の吉成邦春(よしなりくにち)さん(54)が、一昨年から交流のある高尾弥生園長に「おいしくて安全なお米を子どもたちに食べてもらいたい」と餅つきを提案し、十一日に実現した。

天栄村から同郡政庁会長(63)と吉成さんら四人が、日やきねを手に揃んで園まで運び、お米のもち米三十キロを蒸して餅つきがスタート。「ヨシシ、ヨシシ」。子どもたちは歓声を上げて餅つきを体験した後、つきたての餅をあんこやきな粉を付けて味わった。

同郡会長は「餅つきは日本の文化であり、喜んでもらえて良かった。風評はなかなか無くなるが、こうした顔の見える地道な活動が、消費者と生産者を結ぶ力になる」と言葉に力を込めた。

園長園長は「あれだけの大事故だったので放射能ゼロなんてありえないと思っていた自分の考えが、映画を見ると、直接対話することで覆された。彼らの真摯(しんしん)な姿勢には学ぶことが多い」と話した。

天栄村は、東京電力福島第一原発事故で田畑が放射性物質の影響を受けた。研究会は「あきらめず未来に向かう」と実証実験を重ね、土壌の放射性セシウムを根が吸収しないよう力を尽くした。米のおいしさを競うコンクールでは事故前と同様に全賞を受賞した。

風評被害とも闘い、吉成さんらは科学的な検査データを携えて消費者と対話するための全国各地を回っている。みどり幼児園でも一二年生、ドキュメンタリー映画「天に架える村」を制作中だった原村政樹監督の紹介で吉成さんが講演し、その様子も映画のワンシーンになっている。

映画は各地で自主上映会などが開かれている。問い合わせは桜映画社配給部一電03(3478)6110へ。



餅つきをする天栄米栽培研究会の吉成さん(右)らメンバーと、みどり幼児園の子どもたち(八王子市で)